


<b>実戦力UPトレーニング 2年 数学</b>  ウォーミングUP ⑥ ヒントプリント 「データの活用」 本体P 21～24	実施日 年 月 日 氏名
--	-----------------

1

- 1 (1) 最大値…資料中で最も大きい数  
最小値…資料中で最も小さい数
- (2)  $(\text{相対度数}) = \frac{(\text{その階級の度数})}{(\text{度数の合計})}$
- 度数が最も多いのは、30 kg以上 40 kg未満の階級で7人である。
- (3) 中央値…調べようとする資料の値を大きさの順に並べたときの中央の値  
資料の総数が偶数の場合は、中央にある2つの値の合計を2でわった値を中央値とする。

2 (1)  $(\text{相対度数}) = \frac{(\text{その階級の度数})}{(\text{度数の合計})}$

(2)  $(\text{平均値}) = \frac{(\text{資料の値の合計})}{(\text{度数の合計})}$

- 3 (1) 平均値の公式を用いる。
- (2) 中央値…調べようとする資料の値を大きさの順に並べたときの中央の値  
資料の総数が偶数の場合は、中央にある2つの値の合計を2でわった値を中央値とする。  
データを小さい順に並べると、6, 22, 22, 24, 24, 25, 25, 25, 26, 26

- 4 (1) 最頻値…資料の中で、最も多く出てくる値。  
度数分布表では、度数の最も多い階級の階級値。
- (2) 度数分布表の度数をもとにヒストグラム(柱状グラフ)をかく。
- (3) 記録が 20m以上 22m未満, 22m以上 24m未満, 24m以上 26m未満の階級の度数の和を求める。
- (4) 累積度数…最小の階級から各階級までの度数を加えたもの。  
(記録が 16m以上 18m未満の階級の累積度数) ÷ (総度数)

- 5 (1) 累積度数…度数分布表において、最小の階級からある階級までの度数を加えたもの。  
(2) 表より、身長が165 cm未満の人数(160 cm以上165 cm未満の階級の累積度数)を読み取る。

2

- 1 (1) ① 150cm以上170cm未満の度数と170cm以上190cm未満の度数を読み取り、2つの値を合計する。  
②  $(\text{①で求めた値}) \div (\text{総度数 } 40 \text{ 人}) \times 100$   
(2) 平均値…資料全体の平均の値。度数分布表では、階級値を用いて求める。  
中央値…資料を大きさの順に並べたとき、中央にくる値。資料の総度数が偶数の場合は、中央に並ぶ2つの値の合計を2で割った値となる。  
最頻値…資料の中で、もっとも多く出てくる値。度数分布表では、度数のもっとも大きい階級の階級値。  
よって、中央値を用いて説明すればよい。
- 2 (1) 表中の(階級値) × (度数) で求めた値の総和を全体の度数で割ればよい。  
(2) ア 中央値…資料を大きさの順に並べたとき、中央にくる値。資料の総度数が偶数の場合は、中央に並ぶ2つの値の合計を2で割った値となる。  
イ 最頻値…資料の中で、もっとも多く出てくる値。度数分布表では、度数のもっとも大きい階級の階級値。  
ウ  $(\text{範囲}) = (\text{最大値}) - (\text{最小値})$   
エ  $(\text{累積相対度数}) = \frac{(\text{累積度数})}{(\text{総度数})}$   
※累積度数は同じだが、度数の合計が異なるので、累積相対度数は異なることに注意する。